

SMFL

シンガポールで不動産投資

複合型
オフィスビル
ARAと共同出資

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は子会社を通じてシンガポールの不動産運用大手ARAアセットマネジメントと連携し、同国の複合型オフィスビル「ラザダ・ワン」に共同出資した。ARAとの連携によるシンガポールでの不動産投資は2件目。コロナ禍からの経済回復で賃料の上昇も期待できる中、東南アジアや豪州での不動産投資ビジネスを拡充する。

持ち分の50%取得

SMFL子会社のSダ・ワンの持ち分の50%を取得した。SMFLみらいパートナーズ(東京都千代田)ラザダ・ワンは地上11階建てで賃貸可能面積は2万4135平方メートル。ARAと連携し、不動産価値は数百億円規模とみられる。



シンガポールの文教地区にある複合型オフィスビル「ラザダ・ワン」

オフィス街のほか博物館や大学など文化施設が集まるクラスパス地区にある。地下鉄2

業者らが主要テナントとして入居している。完成は1989年だが、ARAが22年に大規模改修を行った。環境配慮型物件として排ガスや水、廃棄物を高エネルギー効率の設備で管理。日射量を最大31%削減するパネルをビル西側表面に設置した。シンガポール建築・建設庁から、建築物の環境性能を評価する認証制度「グリーンマーカー」で最高位を取得している。

SMFLみらいは、21年1月に不動産アセットマネジメント大手のケネディクスを買収したことを機にARAと関係を深め、22年2月にシンガポールの複合型オフィスビル「キヤピタル・スクエア」に共同投資していた。今後は海外不動産投資

事業をタイや豪州にも広げる計画。SMFLグループの21年度の不動産事業のセグメント利益は475億円。国内外での事業拡大により3年間で10%増を目指す。